

結核：有望な新薬も高価格設定に——途上国での普及困難

大塚製薬は、新しい抗結核薬「デラマニド」を一部途上国向けに 1 治療期間あたり 1700 米ドル（約 19 万円）で流通させると発表した。デラマニドは、約 50 年ぶりに開発された 2 種類の抗結核薬の 1 つで、最も致死率が高く、他の薬の多くに耐性を持つ多剤耐性結核と（MDR-TB）と超多剤耐性結核（XDR-TB）に対して有効な、期待の新薬だ。国境なき医師団（MSF）はデラマニドの価格が高価格帯に設定された今回の発表に対し、深い懸念を表明。デラマニドは現在日本を含む 4 カ国でのみ登録されているため、MSF は価格の引き下げとともに、結核の高まん延国での登録を速やかに行うべきだと主張している。

1 治療期間あたり 500 ドルを提唱

薬剤耐性結核（DR-TB）を適切に治療するにあたっては、デラマニドを他の治療薬と併用して服用する必要がある。この治療の費用は、デラマニドを除いても 1 治療期間あたり 1000 ドル-4500 ドル（約 11 万円-51 万円）もかかるのが現状だ（※）。これは途上国向けの最低価格帯だが、それでも途上国政府には購入できない額と言える。DR-TB 治療を広域に拡大するにあたって、MSF は 1 治療期間あたり 500 米ドル（約 6 万円弱）を提唱している。

※DR-TB 治療薬のレジメン価格は 2016 年 3 月に発表予定の報告書『薬剤耐性結核：治療を阻む薬の価格と限られた供給』第 4 版から転載。

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の資金援助対象国は、その国でデラマニドの使用登録がされているか、必要な関税放棄措置を導入していれば、国連内に設置された抗結核薬購入機構である世界結核薬基金（GDF）を通じて、デラマニドを 1 治療期間あたり 1700 米ドル（19 万円）で購入できるようになる。

有望な新薬も利用されなければ価値はない

現在のところ、大塚製薬がデラマニドを登録した国は 4 カ国（ドイツ、日本、韓国、英国）にとどまっており、これらはすべて DR-TB の高まん延国ではない。

MSF 必須医薬品キャンペーン結核アドバイザーのグラニア・ブリグデン医師は次のように話す。「各国は DR-TB 感染者を対象に、流通しているなかで最も有効性が高い薬を用いて治療を拡大し始めるべきです。しかしデラマニドは現在、値段が高くて手に入りにくいか、入手自体ができない状態です。大塚製薬

は、価格を購入しやすい水準にまで下げるとともに、デラマニドを臨床試験にかけた国全々と、結核の高まん延国で速やかに登録すべきです。もし人びとがデラマニドを手に入れられなければ、この有望な新薬も実質的には無価値となります」

これまで実際に受け取ったのは世界で 180 人だけ

推定によると、毎年新たに DR-TB に進行する人びとの 3 分の 2 にあたる 50 万人弱の患者が、デラマニド投与の基準を満たしており、よい効果を期待できる。だが、承認取得から 2 年経過した今も、この新薬を使った治療を受けられた人は 180 人とどまる。

ブリグデン医師は「大塚製薬は、デラマニドによって命が救われる人びとにこの薬が行きわたることを優先すべきです。あらゆる努力によってできるだけ多くの人がこの有望な新規治療薬の恩恵を受けられるようにすべきですが、残念ながら現在の状況はそうになっていません」と話す。

MSF は結核治療に 30 年間携わり、MDR-TB 治療は 1999 年に開始。DR-TB 治療を行う NGO としては最も大きな団体の 1 つ。MSF は 2014 年、2 万 3000 人以上の結核患者を治療し、このうち DR-TB 感染患者は 1800 人にのぼった。MSF の活動の中でデラマニドの使用を拡大することを目指しており、2015 年 12 月には MSF の活動と合同プロジェクト「endTB partnership」用にデラマニドの寄贈を受けた。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press